

令和6年度
関西広域連合 登録販売者試験問題

令和6年8月31日（土）前半

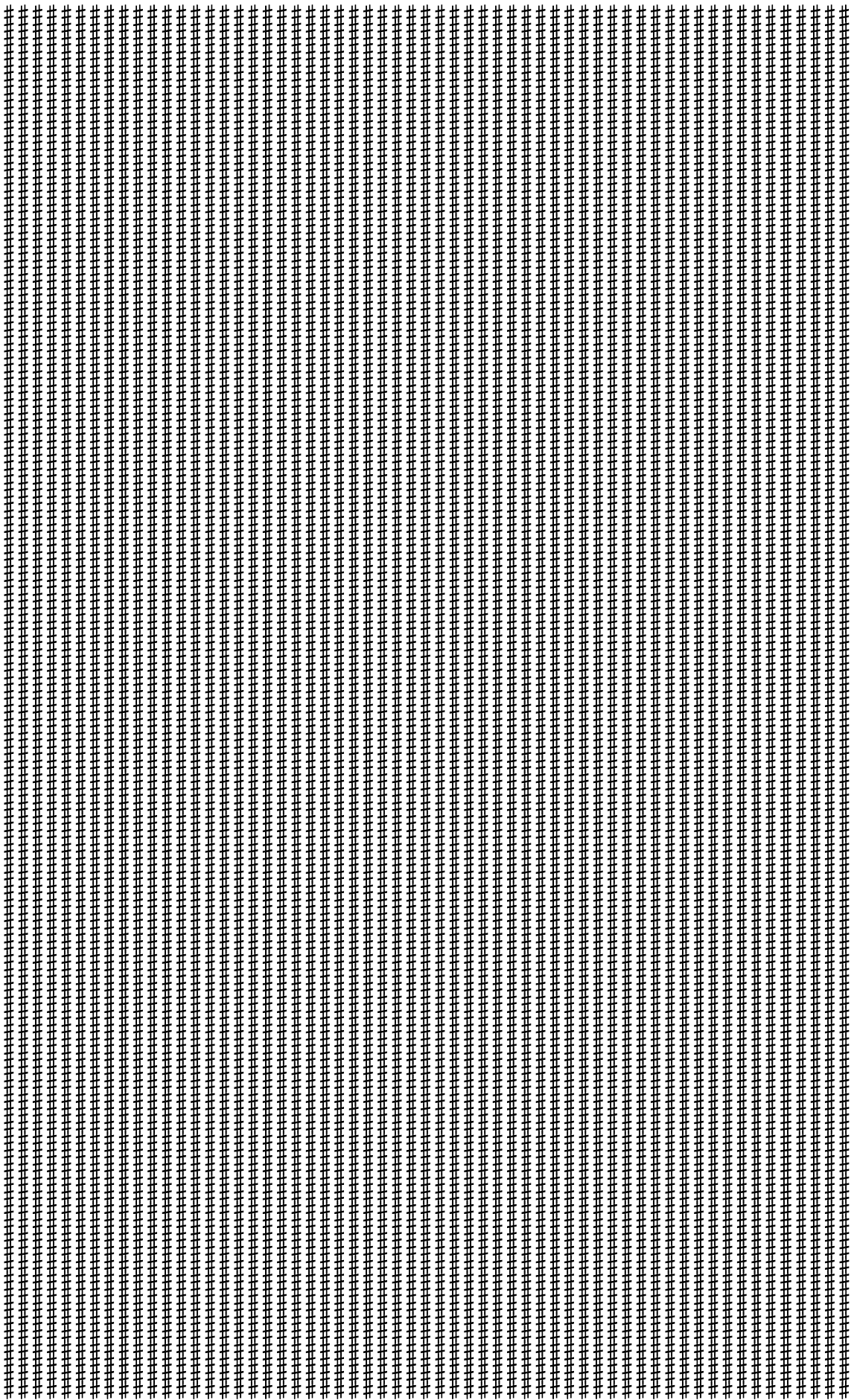
医薬品に共通する特性と基本的な知識	20問
主な医薬品とその作用	40問

注 意 事 項

試験開始の指示があるまで、試験問題を開かないでください。

- 1 試験時間は、120分です。
- 2 解答用紙（マークシート）は、試験問題と別に配布します。
- 3 解答用紙に記入されている受験番号が受験票記載の受験番号と一致しているかを確認し、一致していれば解答用紙に氏名、フリガナを正確に記入してください。
- 4 解答の方法は、問題の選択肢から正解と思うものを1つ選び、解答用紙の解答欄の数字をマークしてください。複数をマークしている場合は、不正解となります。
- 5 マークの方法は、解答用紙に記載してある《注意事項》を遵守してください。
- 6 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
- 7 試験問題中の成分名、人名などの表記そのものには誤りはないものとして解答してください。
- 8 試験問題文中、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」を「法」と省略して記載しています。
- 9 問題の内容については、質問を受け付けません。
- 10 受験票と試験問題は、持ち帰ってください。

試験会場では静粛にし、試験監督者の指示に従ってください。
不正行為や試験監督者の指示に従わないときは、退場を命じ、受験を無効とする場合があります。



[医薬品に共通する特性と基本的な知識]

問 1

医薬品の本質に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 人体に対して使用されない医薬品は、人体がそれに曝^{さら}されても健康を害するおそれはない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、必ずしも期待される有益な効果（薬効）のみをもたらすとは限らない。
- c 医薬品は、人の疾病の診断、治療若しくは予防に使用されること、又は人の身体の構造や機能に影響を及ぼすことを目的とする生命関連製品であるが、保健衛生上のリスクを伴うものではない。
- d 医薬品について、法では健康被害の発生の可能性がある場合のみ、異物等の混入、変質等があってはならない旨を定めている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 2

医薬品の効果とリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品は、少量の投与であれば、長期投与された場合でも毒性が発現することはない。
- b 医薬品の投与量が治療量上限を超えると、やがて効果よりも有害反応が強く発現する「中毒量」となり、「最小致死量」を経て、「致死量」に至る。
- c 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量-反応関係）に基づいて評価される。
- d LD₅₀とは動物実験における最小致死量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問3

医薬品のリスク評価に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 新規に開発される医薬品のリスク評価は、医薬品の安全性に関する非臨床試験の基準である Good Laboratory Practice (GLP) の他に、医薬品毒性試験法ガイドラインに沿った各種毒性試験が厳格に実施されている。
- b ヒトを対象にした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Vigilance Practice (GVP) が制定されている。
- c 医薬品に対しては製造販売後の調査及び試験の実施の基準として、Good Post-marketing Study Practice (GPSP) が制定されている。
- d 医薬品の安全性基準は、食品よりも厳しくない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問4

健康食品に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 健康増進や維持の助けとなることが期待される、いわゆる「健康食品」は、医薬品とは法律上区別される。
- b 健康食品は、カプセルや錠剤等の医薬品に類似した形状で発売されているものも多く、誤った使用方法により健康被害を生じた例も報告されている。
- c 「特定保健用食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品で、国に個別の許可を受けたものではない。
- d 「栄養機能食品」は、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的としたもので、国が定めた規格基準に適合したものであれば、その栄養成分の健康機能を表示できる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問5

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 世界保健機関（WHO）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- b 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用によって、別の疾病に対して症状を悪化させることがある。
- c 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されていないが、十分注意して適正に使用すれば、副作用が生じることはない。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、一般用医薬品を継続して使用する購入者等に特段の異常が認められない場合、医療機関の受診を促す必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問6

アレルギーに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 通常の免疫反応の場合、炎症やそれに伴って発生する痛み、発熱等は、人体にとって有害なものを体内から排除するための必要な過程である。
- b アレルギーは、医薬品の薬理作用等とは無関係に起こり得る。
- c 過去に医薬品でアレルギーを起こしたことがない人であれば、病気等に対する抵抗力が低下している場合であっても、医薬品でアレルギーを生じることはない。
- d カゼインは、アレルギーを引き起こすことのない添加物である。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問7

一般用医薬品の適正使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 症状の改善等がなされないまま、一般用医薬品の使用を漫然と続けているような場合には、副作用を招く危険性が増加する。
- b 指示どおりの使用量で一般用医薬品を使用しても、長期連用により精神的な依存が起こることがある。
- c 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が十分であり、薬物を興味本位で乱用することはない。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、必要以上の大量購入や頻回購入を試みる者に対して、積極的に事情を尋ねるなどの対策を講じることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問8

他の医薬品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 医薬品の相互作用は、医薬品の薬理作用をもたらす部位でのみ起こる。
- b 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。
- c 一般用医薬品のかぜ薬や解熱鎮痛薬等では、成分や作用が重複することが少ないため、通常、これらの医薬品を併用することが望ましい。
- d 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問9

食品と医薬品の相互作用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 食品と医薬品の相互作用は、しばしば「飲み合わせ」と表現され、食品と飲み薬が体内で相互作用を生じる場合が主に想定される。
- b 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、アセトアミノフェンの薬効が強く現れることがある。
- c カフェインを含む総合感冒薬とコーヒーを一緒に服用しても、カフェインの過剰摂取にはならない。
- d 外用薬や注射薬であれば、食品の摂取によって、これら医薬品の作用や代謝が影響を受ける可能性はない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問10

小児等への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 乳児向けの用法用量が設定されている医薬品であれば、乳児は医薬品の使用により状態が急変することはない。
- b 乳幼児は、医薬品が喉につかえると、大事に至らなくても咳き込んで吐き出し苦しむことになり、その体験から医薬品の服用に対する拒否意識を生じることがある。
- c 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）において、おおよその目安として、小児は5歳以上、15歳未満との年齢区分が用いられている。
- d 大人に比べて小児は、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問 1 1

高齢者への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 基礎体力や生理機能の衰えの度合いに個人差はほとんどない。
- b 医薬品の取り違えや飲み忘れを起こしやすいなどの傾向があるため、家族や周囲の人（介護関係者等）の理解や協力が重要となる。
- c 医薬品の説明を理解するのに時間がかかる場合があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。
- d 医薬品の副作用で口渇を生じることがあり、誤嚥^{えん}を誘発しやすくなるので注意が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 1 2

妊婦又は妊娠していると思われる女性への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざりあう仕組みがあるため、妊婦が医薬品を使用した場合は胎児へ医薬品の成分が容易に移行する。
- b 購入者等にとって、妊娠の有無は他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等に従事する専門家がその内容について聞き取る必要はない。
- c 体の変調や不調に対して、一般用医薬品を使用することにより症状を緩和したいという相談があった場合、一般用医薬品の販売等に従事する専門家は、その対処が適切かどうかを含めて慎重に考慮する必要がある。
- d 一般用医薬品において、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価が困難であるため、妊婦の使用については「相談すること」としているものが多い。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 1 3

医療機関で治療を受けている人等への医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 生活習慣病等の慢性疾患では、一般用医薬品を使用することでその症状が悪化することはない。
- b 医療機関・薬局で交付された薬剤を使用している人について、登録販売者は一般用医薬品との併用の可否を容易に判断できることが多い。
- c 疾患の程度や購入しようとする医薬品の種類等に応じて、問題を生じるおそれがあれば使用を避けることができるよう情報提供がなされることが重要である。
- d 医療機関での治療を特に受けていない場合であっても、医薬品の種類や配合成分等によっては、特定の症状がある人が使用するとその症状を悪化させるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問14

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用医薬品は、購入された後すぐに使用されるとは限らないため、外箱等に記載されている「使用期限」から十分な余裕をもって販売することが重要である。
- b 医薬品は、高い水準で均一な品質が保証されていなければならない。
- c 医薬品の外箱等に記載されている「使用期限」は、開封状態で保管された場合でも品質が保持される期限である。
- d 医薬品は、適切な保管・陳列がなされていれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問15

適切な医薬品選択と受診勧奨に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 一般用医薬品は、医療機関での治療を受けるほどではない体調不良や疾病の初期段階、あるいは日常において、生活者が自らの疾病の治療、予防又は生活の質の改善・向上を図ることを目的として用いられる。
- b 一般用医薬品の役割の一つに、生活習慣病の治療がある。
- c 一般用医薬品であっても、使用すればドーピングに該当する成分を含むものがあるため、スポーツ競技者から相談があった場合は、専門知識を有する薬剤師などへの確認が必要である。
- d 乳幼児や妊婦等では、一般用医薬品で対処可能な範囲は、通常の場合に比べ限られてくることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 1 6

一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 登録販売者は、全ての一般用医薬品の販売、情報提供等を担う観点から、一般の生活者のセルフメディケーションに対して支援していくという姿勢で臨むことが基本となる。
- b 購入者等が自分自身や家族の健康に対する責任感を持ち、適切な医薬品を選択して、適正に使用するよう働きかけていくことが重要である。
- c 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合は、情報提供を行うためのコミュニケーションを図る必要はない。
- d 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会を継続的に確保するよう配慮することが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 17

サリドマイド及びサリドマイド訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 解熱鎮痛薬として販売されたサリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生した。
- b サリドマイドの血管新生を妨げる作用は、サリドマイドの光学異性体のうち、一方の異性体のみが有する作用であるため、もう一方の異性体を分離して製剤化すれば避けることができる。
- c 妊娠している女性がサリドマイドを摂取した場合、サリドマイドは血液—胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- d 1961年11月、西ドイツ（当時）のレント博士がサリドマイド製剤の催奇形性について警告を発し、西ドイツでは製品が回収されたことに伴い、日本でも、同年中に速やかに販売停止及び回収措置が取られた。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問18

H I V訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 血友病患者が、ヒト免疫不全ウイルス（H I V）が混入した原料血漿^{しょう}から製造された免疫グロブリン製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 本訴訟の和解を踏まえ、国は、薬害の再発を防止するための様々な取り組みを推進したが、その後、サリドマイド訴訟、スモン訴訟が相次いで起こった。
- c 本訴訟を踏まえ、医薬品の副作用等による健康被害の再発防止に向けた取り組みの一つとして、製薬企業に対し、感染症報告の義務づけ等を内容とする薬事法の改正が行われた。
- d 本訴訟を契機に、血液製剤の安全確保対策として検査や献血時の問診の充実が図られた。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問19

クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）及びCJD訴訟に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a CJD訴訟とは、脳外科手術等に用いられていたヒト乾燥硬膜を介してCJDに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b CJD訴訟は、生物由来製品による感染等被害救済制度が創設等される契機のひとつとなった。
- c CJDは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- d CJDは、細菌でもウイルスでもない脂質の一種であるプリオンが原因とされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問20

C型肝炎訴訟に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組合せを選べ。なお、複数箇所の（ b ）内は同じ字句が入る。

出産や手術での大量出血などの際に特定の（ a ）や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことにより、C型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。（ b ）を被告として、2002年から2007年にかけて、5つの地裁で提訴されたが、判決は（ b ）が責任を負うべき期間等について判断が分かれていた。このような中、C型肝炎ウイルス感染者の早期・一律救済の要請にこたえるべく、（ c ）によって、2008年1月に特別措置法が制定、施行された。

	a	b	c
1	アルブミン製剤	国及び製薬企業	議員立法
2	アルブミン製剤	国及び医療機関	厚生労働省
3	フィブリノゲン製剤	国及び医療機関	議員立法
4	フィブリノゲン製剤	国及び製薬企業	厚生労働省
5	フィブリノゲン製剤	国及び製薬企業	議員立法

[主な医薬品とその作用]

問 2 1

かぜ及びその治療に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a かぜ薬は、原因となるウイルスの増殖を抑えたり、体内から除去することにより、かぜの諸症状の緩和を図るものである。
- b 原因となるウイルスには、ライノウイルス、アデノウイルスなどがある。
- c 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、総合感冒薬ではなく、それぞれの症状に合わせて薬を選択することが望ましい。
- d 急激な発熱を伴う場合や、症状が4日以上続くとき、又は症状が重篤なときは、かぜではない可能性が高い。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

問 2 2

かぜ薬（総合感冒薬）の配合成分とその配合目的との関係について、正しいものの組合せを選べ。

	配合成分	配合目的
a	メチルエフェドリン 塩酸塩	鼻粘膜の充血を和らげ、気管・気管支を拡張する。
b	メキタジン	熱を下げる。
c	ブロムヘキシン 塩酸塩	痰の切れを良くする。
d	ノスカピン	炎症による腫れを和らげる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 2 3

かぜ薬（総合感冒薬）の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 解熱鎮痛成分として、サリチルアミド、イソプロピルアンチピリン等が用いられる。
- b エテンザミドは、15歳未満の小児で水痘にかかっているときは使用を避ける。
- c アドレナリン作動成分として、クレマスチンフマル酸塩が用いられる。
- d 抗コリン成分として、グリチルリチン酸二カリウムが用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 2 4

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、体力虚弱な人に用いるものの組合せを選べ。

- a 葛根湯 かつこんとう
- b 桂枝湯 けいしとう
- c 小柴胡湯 しょうさいこうとう
- d 香蘇散 こうそさん

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 2 5

解熱鎮痛薬（生薬成分を除く。）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すことを目的とする。
- b 飲酒によって、解熱鎮痛薬による胃腸障害が増強する可能性がある。
- c アスピリンには血液を凝固しにくくさせる作用がある。
- d アスピリン^{ぜん}喘息は、アスピリン特有の副作用ではなく、他の解熱鎮痛成分でも生じる可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 2 6

鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 呉茱萸湯ごしゅゆとうは、体力中等度以下で、手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔吐おう、しゃっくりに適すとされる。
- b 釣藤散ちょうとうさんは、体力に関わらず使用でき、筋肉の急激な痙攣けいれんを伴う痛みのあるもののこむらがえり、筋肉の痙攣けいれん、腹痛、腰痛に適すとされる。
- c 桂枝加朮附湯けいし かじゆつ ぶとうは、体力虚弱で、汗が出、手足が冷えてこわばり、ときに尿量が少ないものの関節痛、神経痛に適すとされる。
- d 芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとうは、体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

問 2 7

一般用医薬品の解熱鎮痛薬購入者に対する登録販売者の説明について、適切なものの組合せを選べ。

- a 発熱が1週間以上続く場合は、服用量を増やしてください。
- b 年月の経過に伴って月経痛が悪化している場合は、病院を受診してください。
- c 頭痛に対して使用する場合には、症状が出る前に服用してください。
- d 肝機能障害を起こすことがあるので、服用期間中の飲酒はやめてください。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 2 8

眠気防止薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 小児用の眠気防止薬はない。
- b かぜ薬を使用したことによる眠気を抑えるために、眠気防止薬を使用することは適切ではない。
- c カフェインには、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収抑制作用がある。
- d 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量はカフェインとして20mg、1日摂取量はカフェインとして50mgが上限とされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 2 9

乗物酔い防止薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ジフェニドール塩酸塩は、前庭神経の調節作用と内耳への血流改善作用を示す。
- b メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が短い。
- c スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、中枢に作用して自律神経系の混乱を軽減させるとともに、末梢では消化管緊張低下作用を示す。
- d ジプロフィリンは、脳の興奮を抑制するキサンチン系成分である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 3 0

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選び。

体力虚弱で疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸^き、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱体質、疲労倦怠^{けん}、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされる。

- 1 さいこ かりゅうこつぼれいとう 柴胡加竜骨牡蛎湯
- 2 けいし かしゃくやくとう 桂枝加芍薬湯
- 3 しょうけんちゅうとう 小建中湯
- 4 よくかんさん 抑肝散
- 5 びやっこ かにんじんとう 白虎加人参湯

問 3 1

ジヒドロコデインリン酸塩に関する記述の正誤について、正しい組合せを選び。

- a 使用するにあたっては、12歳以上であることの確認が必要である。
- b 母乳への移行が少ないことから、授乳中であっても服用することができる。
- c 長期連用や大量摂取によって多幸感等が現れることがあり、依存性がある。
- d 延髄^{がいそう}の咳嗽中枢^{せき}に作用して、咳を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 3 2

口腔咽喉薬・含嗽薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 口腔咽喉薬及び含嗽薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響を生じることはない。
- b 含嗽薬は即効性があり、使用後すぐに食事を摂っても、殺菌消毒効果に対する影響はほとんどない。
- c 医薬部外品として製造販売されている製品もある。
- d 噴射式の液剤では、口腔の奥まで薬液が届くように、軽く息を吸いながら噴射することが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 3 3

次の記述にあてはまる咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤として、最も適切なものを選べ。

体力中等度以下で、痰が切れにくく、ときに強く咳こみ、又は咽頭の乾燥感があるもののから咳、気管支炎、気管支喘息、咽頭炎、しわがれ声に適すとされるが、水様痰の多い人には不向きとされる。

- 1 驅風解毒湯
- 2 麦門冬湯
- 3 響声破笛丸
- 4 桔梗湯
- 5 白虎加人参湯

問34

胃に作用する薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ジメチルポリシロキサン（ジメチコン）は、制酸成分である。
- b ピレンゼピン塩酸塩は、消化成分である。
- c タカヂアスターゼは、健胃成分である。
- d メタケイ酸アルミン酸マグネシウムは、胃液分泌抑制成分である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問35

止瀉薬^{しゃ}の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ベルベリン塩化物は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として配合されている。
- b 天然ケイ酸アルミニウムは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害物質を吸着することを目的として配合されている。
- c タンニン酸アルブミンは、収斂^{れん}作用により腸粘膜を保護することを目的として配合されている。
- d ロペラミド塩酸塩が配合された止瀉薬^{しゃ}は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢の症状に用いられることを目的としており、食あたりや水あたりによる下痢については適用対象ではない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問36

胃腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 麻子仁丸^{ましにんがん}は、体力虚弱で、疲れやすくて手足などが冷えやすいものの胃腸虚弱、下痢^{おう}、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎に適すとされる。
- b 六君子湯^{りっくんしとう}は、体力中等度以上で、下腹部痛があつて、便秘しがちなものの月経不順、月経困難、月経痛、便秘^じ、痔疾に適すとされる。
- c 大黃甘草湯^{だいおうかんぞうとう}は、体力に関わらず使用でき、便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹・皮膚炎、ふきでもの、食欲不振、腹部膨満、腸内異常発酵、痔^じなどの症状の緩和に適すとされる。
- d 安中散^{あんちゅうさん}は、体力中等度以下で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔吐^{おう}などを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問37

瀉下薬又は浣腸薬の購入者に対する登録販売者の説明について、不適切なものの組合せを選べ。

- a 複数の瀉下薬^{しゃ}を同時に使用しないよう説明した。
- b センノシドが配合された瀉下薬^{しゃ}を服用する際には、授乳を控えるように説明した。
- c ビサコジルが配合された瀉下薬^{しゃ}は、服用後すぐに効果があることが多いため、起床時に服用するよう説明した。
- d グリセリンが配合された浣腸薬^{かん}について、繰り返し使用することで効果が強くなると説明した。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 3 8

胃腸鎮痛鎮痙^{けい}薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 下痢を伴う腹痛の場合、基本的に下痢への対処が優先されるため、胃腸鎮痛鎮痙^{けい}薬の適用となる症状ではない。
- b チキジウム臭化物には、胃液分泌を抑える作用はない。
- c ブチルスコポラミン臭化物は、アセチルコリンと受容体の反応を妨げる。
- d オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 3 9

一般用医薬品の強心薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ゴオウは強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- b ユウタンは苦味による健胃作用を期待して用いられるほか、消化補助成分として配合される場合もある。
- c センソが配合された内服固形製剤は、口中で噛み砕くと舌等が麻痺^ひすることがある。
- d シンジュは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 4 0

次の成分の一般用医薬品の高コレステロール改善薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

6 カプセル中：

成分	分量
パンテチン	3 7 5 m g
大豆油不けん化物（ソイステロール）	6 0 0 m g
トコフェロール酢酸エステル	1 0 0 m g
ルチン	6 0 m g
ピリドキシリン塩酸塩	1 0 m g

- a コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成する成分が含まれている。
- b 高密度リポタンパク質（HDL）等の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質（LDL）産生を高める作用をもつ成分が含まれている。
- c 尿が黄色くなる成分が含まれている。
- d 血中コレステロール異常を改善することにより、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなど、^そ瘦身効果を目的とする医薬品である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 4 1

次の表は、ある一般用医薬品の貧血用薬に含まれている成分の一覧である。この医薬品を購入する目的で店舗を訪れた35歳女性から、次のような相談を受けた。この女性に対する登録販売者の説明の正誤について、正しい組合せを選べ。

(相談内容)

この薬を使用する際に気をつけることを教えてほしい。最近、仕事が忙しくて食生活が乱れている。ビタミンC主薬製剤を服用している。

2錠中：

成分	分量
溶性ピロリン酸第二鉄	79.5 mg
シアノコバラミン（ビタミンB12）	50 μg
葉酸	2 mg

- a 鉄分の吸収は空腹時の方が高いので、消化器系への副作用を軽減するためにも、食前に服用する方が望ましいです。
- b 鉄の吸収が悪くなることがあるので、ビタミンC主薬製剤の服用は中止して下さい。
- c 服用後、便が黒くなったら直ちに服用を中止してください。
- d 食生活を改善し、この薬を2週間程度続けても症状の改善がみられない場合には、服用を中止し、医療機関を受診してください。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 4 2

痔及び一般用医薬品の痔疾用薬とその配合成分に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a 一般に「いぼ痔」と呼ばれる痔核のうち、直腸粘膜と皮膚の境目となる歯状線より上部の、直腸粘膜にできた痔核を外痔核と呼ぶ。
- b 痔瘻は、肛門内部に存在する肛門腺窩と呼ばれる小さなくぼみに糞便の滓が溜まって炎症・化膿を生じた状態である。
- c 痔に伴う痛み・痒みを和らげることを目的に、リドカイン等の局所麻酔成分が用いられる。
- d 現在、製造販売されている一般用医薬品の痔疾用薬は、肛門部又は直腸内に適用する外用薬のみである。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 4 3

婦人薬として用いられる生薬成分及び漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a サフラン、コウブシは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して用いられる。
- b 加味逍遙散、桃核承気湯は、構成生薬としてカンゾウを含まない。
- c 温経湯は、体力中等度以下で、手足がほてり、唇が乾くものの月経不順、月経困難、こしけ、更年期障害、不眠、神経症、湿疹・皮膚炎、足腰の冷え、しもやけ、手あれに適すとされる。
- d 桂枝茯苓丸は、体力虚弱で、冷え症で貧血の傾向があり疲労しやすいものの月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ、耳鳴りに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	誤	正	正

問 4 4

60歳男性が、アレルギー性鼻炎によるくしゃみ、鼻みず、鼻づまりの症状があるため、次の成分の一般用医薬品の内服薬を購入する目的で店舗を訪れた。

6錠中：

成分	分量
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	6 mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.6 mg
フェニレフリン塩酸塩	30 mg

この男性に対する登録販売者の説明について、適切なものの組合せを選べ。

- a 眠気を促す成分が含まれているため、服用後は、乗物又は機械類の運転操作を避けるように説明した。
- b 5～6日間使用しても症状の改善が見られない場合には、服用を中止し、医師の診療を受けるよう説明した。
- c コリン作用（アセチルコリンに類似した作用）を示す成分が含まれているため、排尿困難の症状や緑内障の診断を受けているならば、服用前に治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談するよう説明した。
- d 下痢を起こしやすい成分が含まれていると説明した。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問 4 5

鼻炎及び鼻炎用点鼻薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a アレルギー性鼻炎は、鼻腔内に付着したウイルスや細菌が原因となって生じる鼻粘膜の炎症で、かぜの随伴症状として現れることが多い。
- b ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌及び結核菌に対する殺菌消毒作用を示す。
- c テトラヒドロゾリン塩酸塩は、鼻粘膜を通っている血管を拡張させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。
- d 一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、アレルギー性鼻炎及びそれに伴う副鼻腔炎、蓄膿症等である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 4 6

点眼薬における一般的な注意に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されてない限り行うべきでない。
- b 薬液を結膜囊に行き渡らせるためには、点眼後にまばたきを数回行うと効果的とされる。
- c 正確に点眼するために、容器の先端を目尻につけて点眼すると良い。
- d 一度に数滴点眼することで効果が増し、副作用も起こりにくくなる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	誤	誤
5	誤	誤	誤	誤

問 4 7

眼科用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a パンテノールは、自律神経系の伝達物質の産生に重要な成分であり、目の調節機能の回復を促す効果を期待して用いられる。
- b アズレンスルホン酸ナトリウムは、結膜を通っている血管を収縮させて目の充血を除去する目的で配合されている場合がある。
- c イプシロン-アミノカプロン酸は、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。
- d アスパラギン酸カリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 4 8

きず口等の殺菌消毒成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a オキシドールの作用は持続的であり、組織への浸透性は高い。
- b きず口等の殺菌消毒成分として使用されるポビドンヨードの濃度は、含嗽薬として用いられている濃度と同じである。
- c ヨウ素の殺菌力はアルカリ性になると低下するため、石けん等と併用する場合には、石けん分をよく洗い落としてから使用する。
- d 消毒用エタノールの粘膜（口唇等）や目の周りへの使用は、避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

問 4 9

打撲や捻挫等への対応に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 患部を氷^{のう}嚢などで冷やすことにより、内出血を最小限にし、痛みの緩和を図る。
- b 患部を弾性包帯やサポーターで軽く圧迫し、心臓よりも高くしておくことにより、腫れを抑える。
- c 冷感刺激成分であるノニル酸ワニリルアミドが配合された外用鎮痛薬は、急性の腫れや熱感を伴う症状に対して適している。
- d フェルピナクは、打撲、捻挫等による鎮痛を目的として用いられるステロイド性抗炎症成分である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 5 0

外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ケトプロフェンが配合された外皮用薬は、使用している間だけでなく使用後も当分の間、塗布部が紫外線に当たるのを避ける必要がある。
- b 創傷面に薄い皮膜を形成して保護することを目的として、ピロキシリン(ニトロセルロース)が用いられる場合がある。
- c イオウは、皮膚の角質層を構成するケラチンを変質させることにより、角質軟化作用を示す。
- d 尿素は、角質層の水分保持量を高め、皮膚の乾燥を改善することを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 5 1

50歳男性が、次の成分の一般用医薬品の毛髪用薬を購入する目的で店舗を訪れた。この薬に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

100 mL 中：

成分	分量
カルプロニウム塩化物	2.0 g
カシュウチンキ（原生薬量 1 g）	3.0 mL
チクセツニンジンチンキ（原生薬量 1 g）	3.0 mL
ヒノキチオール	0.05 g
パントテニールエチルエーテル（パントテン酸の誘導体）	1.0 g
1-メントール	0.3 g

- a カルプロニウム塩化物の副作用として、発汗、それに伴う寒気、震え、吐きけが現れることがある。
- b カシュウ（カシュウチンキ）は、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して配合されている。
- c ヒノキチオールは、アセチルコリンに類似した作用により、頭皮の血管拡張と毛根への血行を促進する作用を期待して配合されている。
- d 脱毛は、男性ホルモンの働きが過剰であることが一因であるため、この医薬品には女性ホルモン成分が配合されている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問52

歯痛・歯槽膿漏^{のう}の病態及び治療薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 歯槽膿漏^{のう}は、歯肉炎が重症化して、歯周組織全体に炎症が広がったものである。
- b 歯痛薬（外用）は、歯痛を鎮め、歯の齲蝕^{うしよく}を修復することを目的として用いられる。
- c 銅クロロフィリンナトリウムは、炎症を起こした歯周組織の修復を促す作用のほか、歯肉炎に伴う口臭を抑える効果も期待して配合される。
- d ジブカイン塩酸塩は、齲蝕^{うしよく}を生じた部分における細菌の繁殖を抑えることを目的として配合される。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	正

問 5 3

一般用医薬品の禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 咀嚼剤とパッチ製剤の2種類の禁煙補助剤を併用しても、ニコチンの過剰摂取のおそれはなく、禁煙達成に効果的である。
- b 咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が促進されるため、炭酸飲料を摂取した後はしばらく使用を避ける。
- c 禁煙補助剤は、喫煙を完全に止めたい場合使用しない。
- d 重い狭心症や不整脈と診断された人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問 5 4

滋養強壮保健薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 体調不良を生じやすい状態や体質の改善等を目的として、ビタミン成分、カルシウム、アミノ酸、生薬成分等が配合されている。
- b 生薬成分であるゴオウ、ロクジョウの配合は、医薬品においてのみ認められている。
- c 適用となっている症状の改善を早めたい場合には、多めに摂取すれば良い。
- d 数種類の生薬をアルコールで抽出した薬用酒は、手術や出産の直後等の滋養強壮を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問 5 5

滋養強壯保健薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a ビタミンB 2は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b アミノエチルスルホン酸は、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- c システインは、皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働きがあるとされる。
- d ビタミンB 6は、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素で、血流を改善させる作用がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 5 6

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを選べ。

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。

- 1 黄連解毒湯 おうれんげどくとう
- 2 防己黄耆湯 ぼういおうぎとう
- 3 防風通聖散 ぼうふうつうしょうさん
- 4 大柴胡湯 だいさいことう
- 5 清上防風湯 せいじょうぼうふうとう

問57

漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 漢方薬を使用する場合、「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- b 「皮膚の色つやが悪く」と表現される状態は、漢方の病態認識では水毒となる。
- c 漢方処方製剤に使われる生薬成分は、医薬品的な効能効果が暗示されていなければ、全て食品として流通させることができる。
- d 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後6か月未満の乳児には使用しないこととされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問58

殺菌・消毒、滅菌及び消毒薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 滅菌は、物質中の特定の微生物を殺滅又は除去することをいう。
- b 次亜塩素酸ナトリウムは、一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を有するため、金属性の医療機器の消毒によく用いられる。
- c エタノールは、微生物のタンパク質の変性作用を有し、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- d 生息条件が整えば消毒薬の溶液中で生存、増殖する微生物もいる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問59

代表的な衛生害虫に関する記述について、正しいものの組合せを選べ。

- a ツツガムシは、ヒトへの吸血によって皮膚に発疹や痒みを引き起こすほか、日本脳炎、マラリア、黄熱、デング熱等の重篤な病気を媒介する。
- b ペットのイヌに寄生するシラミは、ヒトにも寄生し吸血する。
- c ゴキブリの燻蒸処理を行う場合、卵から孵化した幼虫の駆除のための燻蒸処理を、3週間位後に再度行う必要がある。
- d トコジラミに刺されると、アレルギー反応による全身の発熱、睡眠不足、神経性の消化不良を起こすことがある。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

問60

一般用検査薬に関する記述の正誤について、正しい組合せを選べ。

- a 検体中に検査の対象物質が存在していないにもかかわらず、検査対象外の物質と非特異的な反応が起こって検査結果が陽性となった場合を偽陽性という。
- b 原則として、尿糖検査の場合、早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、尿タンパク検査の場合、食後2～3時間を目安に採尿を行う。
- c 妊娠検査薬は、尿中のヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）の有無を調べるものである。
- d 近年、疾病を早期発見するために、一般用検査薬の対象として、悪性腫瘍、心筋梗塞の診断に関係するものが含まれるようになった。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	正
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤